

令和5年度 第1回庁議概要

- 1 開催日：令和5年5月9日（火）16時05分～16時20分
- 2 議事概要：以下のとおり
（●議題提出部局説明・回答、☆意見・質問）

議題1 教育施策大綱（案）について

- 長崎副部長兼ひとづくり政策総括監兼プロモーション総括監兼太平洋・島サミット推進総括監（資料1に基づき説明）

県政の中長期的な方向性を示す総合計画「強じんな美し国ビジョンみえ」「みえ元気プラン」を策定したことから、「ビジョン」「プラン」との整合を図るため、現行の「三重県教育施策大綱」を見直し、新たに「大綱」を策定する。

三重県教育施策大綱は、三重の教育の基本方針となるもので、教育委員会の所管する公立学校教育以外にも、家庭教育や高等教育、生涯教育など複数の部局に関係するものである。

大綱の期間は令和5年度から令和8年度までとし、この後、総合教育会議やパブリックコメント、議会から意見をいただきながら策定したいと考えている。

☆一見知事

昨年度から教育委員や教育の有識者の方々と意見交換を行いながら大綱としてまとめた。ポイントは4つある。

1つ目は、いじめ問題についてしっかりと対応していくということ

2つ目は、自己肯定感を高めていくことが重要であること

3つ目は、教職の魅力向上について、教職は非常に崇高な職務であるとともに、喜びを感じられる仕事であるが、勤務時間などの課題があり、それへの対応をどうしていくのかということ

4つ目は、三重県から世界で活躍できるような人たちを育てていきたいということ
この後、総合教育会議で意見をいただき、よりよいものにしていきたいと思っている。

子どもがいない社会はあり得ないし今後も来ないと思うが、子どもが苦しい思いをして生きている社会というのはあり得ること。それを少しでもなくしていきたい。教育はとても大事であり、子どもたちがいきいきと伸び伸びとしていけるような社会をつくっていきたい。

議題2 南海トラフ地震をはじめとする大規模地震の初動対応レビューについて

- 山本防災対策部長（資料2に基づき説明）

大規模地震発生時には、初動対応が被害の軽減やその後の応急対策に大きな影響を及ぼすため、発災後概ね72時間の初動対応についてレビューを行った。

発災当初には、①災害対策本部体制の迅速な確立、そして②人命救助に資する活動への資源の優先配分が必要となる。初動対応のうち、災害対策本部体制の部分については、昨年8月にレビューを実施し公表したが、今回は救助・救急活動の全体

について、リスクを洗い出し、具体的な活動手順をタイムラインとして整理し、全体として初動対応レビューをとりまとめた。

今回のレビューの範囲は、初動対応における情報収集から救助・救急活動、また、そのための基盤整備としており、その中で想定されるリスクとして、発災の時間帯や被害状況に伴うさまざまな活動の制限などを想定している。そのリスクに対して、あらかじめ応援要請先や代替手段を整理しておくことが重要であり、対応方針として整理した。

また、こうしたリスクへの対応も踏まえながら実施すべき対策や具体的な活動手順を、分野だけでなく、フェーズに分けて整理しており、一元的に対策を見渡せるようにタイムラインを作成した。

レビュー全体としての成果は4点。

まず1点目は、より迅速な初動対応のため、令和5年度当初予算で常設のオペレーションルームとシチュエーションルームの整備等に取り組んでいること。

2点目は、災害発生時に第一線で対応を行う市町支援のため、あらかじめ指定した名簿に基づいて、総括的な支援を行う管理職等を派遣する新たな緊急派遣チームの体制を整備したこと。

3点目は、地震・津波災害時には上空・海上からの情報収集・救助活動が重要であるため、海上保安庁と包括連携協定を締結し、連携を強化したこと。

最後に4点目として、レビューで整理した具体的な活動手順をタイムラインとして整理したこと。

このレビューやタイムラインを活用した訓練を実施して、県の初動対応能力を更に向上させていきたいと考えているので、各部局におかれては、それぞれの役割に基づいてご協力をお願いしたい。

☆一見知事

私自身も災害対応の経験をいくつかしており、それを今回のタイムラインの中にも盛り込んだ。ただ、これは完全ではないので、石川県に派遣された職員の意見も聞き、PDCAサイクルを回し、最新のものにしていくと良い。

今回のレビューを受けて、災害対策本部要員用の水洗でないトイレの整備を今年度予算で行う。そういったロジの部分からやっていくということが非常に重要である。

そのうえで、2点指示する。

- 1 県庁だけで災害対応を行うことはできない。国や市町、関係機関との一層の連携強化を意識すること。
- 2 初動対応タイムラインに基づいた訓練を行い、PDCAサイクルを回し見直しをしていくことで、より迅速で的確な対応につなげていくこと。それが県民の命を救うことになる。